

A. 0001

私をはじめで自動車保険を契約したときのクラクラ感がよみがえりました。学生でした。お金には、日本の通貨には円という単位があって、おおよそ「〇〇円」と数字が入ってやりとりしているわけです。バイト代が自給700円くらいのころです。そのころの保険料は、今とは比べられないほど高くって、月に30,000円以上払っている友達はザラでした。それにしても無制限、∞!とは、保険会社はなんて太っ腹なんだと感心しました。「対人賠償 無制限」私は、私が事故を起こして、相手の方を怪我させたら、相手が言うなりに払ってやってくださいと言うつもりでした。が、保険会社は言うなりにお金を出すわけではありません。支払基準というものさしがあり、その尺度にあてはまっていれば、賠償金を支払うのです。

基準というのは、社会的に妥当である、ということです。誰が妥当だということかという、裁判所です。裁判の判例にもとづくものです。むやみやたらと払うわけではありません。保険会社の提示額に不服があれば、裁判を起こし、国家理性(裁判所)の判断を仰ぐということになります。

それにしても、対人賠償のみならず、対物賠償にも「無制限」ができました。学生の当時は100万が標準でした、が。その後、人身傷害というのができて、これも「無制限」があります。どこまで「無制限」がならぶ、増えていくのか、個人的には興味がありますが、気持ちにインフレが起きて、有難味が減らなきやいな、と思います。

ちなみに、企業関連の保険には、無制限条項はありません。